

令和5年1月10日

庄川中学校 令和4年度 第3学期始業式 式辞

2023年がスタートしました。

昨年、2学期の終業式を行うことができず、なんとなく中途半端な、そしてさびしい年末でしたが、今日、このように始業式を行うことができ、改めて顔を合わせるといいものだなあと、うれしい気持ちになりました。

また、終業式で皆さんに報告しようと思っていたお知らせも、年をまたいで本日になってしまいました。それは、庄川中学校が表彰をいただいたという、うれしいお知らせです。「キャリア教育推進連携表彰」、みなさんの生き方に関わる教育を、地域と学校が一緒に力を合わせて行っていることが認められたというものです。学校を支えてくださる地域の方々へ感謝するとともに、これからも「なりたい自分」に向かって進むことが、地域への恩返しになるのではないかと思います。

校長室の扉は開いています。

12月24日、2学期終業式の式辞で話そうと思っていた最初のフレーズです。伝えたかったことは、弱みばかりではなく、強みにも目を向け、「自分の強みを知る」ということでした。

では、3学期は？

3学期は進学・進級に向かう学期です。特に一人でも多くの3年生が、「ここで学んで、ここで学校生活を送ることができてよかった」と思ってくれることを願っています。

さて、そんな中、私はまた一つ庄中生の強みを見付けました。それは、「自分ではない誰かのために動くことができる」という強みです。昨年末、そんな強みをもっている執行部の人たちに出会いました。

その人たちは、学校のきまりや生徒会組織を見直したいと考えています。その考えを聞いたとき、私は思いました。なぜ、自ら苦勞を買って出てくれたのだろう・・・と。その訴えは、今日言って、明日から変わるほど簡単なものではありません。早くても来年度からになることが予想されます。つまり、3年生は卒業し、その恩恵を庄中生として受けることはありません。また、1、2年生の執行部の任期はあと少しなので、大きな苦勞をせずに任期を終了することもできたはずですよ。

この後、訴えがどのような形で実行されるかは、分かりません。しかし、庄川中学校が得たものは大きいと思います。挑戦、活気、感謝・・・。何より、人のために動くことを目の前で実践してくれていること、そして、そんな姿をみせてくれたことに心から敬意を表します。

校長室の扉は、開いています。

扉を深く閉ざしていたら、みなさんの声が聞こえなかったかもしれません。訴えが届かなかったかもしれません。

そんな扉は、心の中にも存在するものだと思います。弱い自分と向き合う扉、自分の強みを知る扉、自分の思いを発信する扉、相手の言葉を聞く扉・・・。きっと扉を開ければ、これまでと違った自分を発見できるのではないかと思います。

ノック ザ ドア

そして、閉まっている扉をノックする勇氣、ノックされた扉を開ける勇氣をもち、「なりたい自分」にまた一歩近づく、そんな年にしてほしいと願い、3学期始業式の式辞といたします。